



お店の前でスタッフと共に、前列右から三人目が川瀬さん

vol.

16

「株式会社 帝塚山ハウンドカム」川瀬隆庸さん (大阪市)

たかつお

今、世は空前のペットブーム。一人暮らしや高齢化が進み、犬や猫はペットというより、かけがえのないパートナーや家族の一員という存在に変わっていき、ペットたちの健康にも大きな関心が集まっています。今回、お邪魔した「帝塚山ハウンドカム」は、トータルに犬や猫の健康を考え、自然食のペットフーズを扱う創業27年のペットショップです。社長の川瀬隆庸さんは、ある体験がきっかけで、犬や猫にとっての「玄米菜食」って何だろう、と疑問を持ち追求されてきました。お話を聞くにつれ、現代の犬や猫たちの驚きの健康事情が次々と明らかになりました。

川瀬 まず私自身の体験がきっかけでした。僕は子どもの頃、小児喘息で、それもけっこうひどくて、小学校時代は三分の一を休むような状態でした。大阪市のど真ん中、北浜に住んでいたのが転地療養で転居したり、スポーツしたりして、大きくなるにつれて、どうにかましになりました。

ところが、ペットショップを始めて5年ほど経った時、悪化して年に1、2回は激しい発作が起きるのです。どうにか治そうと、大きな病院のアレルギ専門科に行ったのですが、アレルギ検査したら、なんと一番のアレルゲンは「犬や猫の毛」。僕は脱サラして「生涯の仕事しよう」と思っていたのに、「犬や猫を扱う仕事は向いてない」と言われてしまいました。そんなことを言われてもやめるわけにもいかないし、何とかして治したいからと、朝昼晩と飲む何種類もの大量の薬をもらい半年くらい続けたのですが良くならないので、「先生、どうしたら治るんですか」と聞いたら「喘息は治らないよ。薬で症状を抑えながら、だましましたまし一生付き合ってくださいよ」と言われてしまいました。僕は治ると思って行っていたのでショックでした。

「そうか薬で病気は治らないのやな」と、その時から治る方法を模索し

— お店を見せて頂くと、自然食のペットフードや冷凍肉、アレルギ対応の商品など、スーパーマーケットやホームセンターのペット商品売り場などでは見かけないような品が沢山ありますね。自然食のペットフードのお店を開くようになったきっかけは何ですか？

うにか治そうと、大きな病院のアレルギ専門科に行ったのですが、アレルギ検査したら、なんと一番のアレルゲンは「犬や猫の毛」。僕は脱サラして「生涯の仕事しよう」と思っていたのに、「犬や猫を扱う仕事は向いてない」と言われてしまいました。そんなことを言われてもやめるわけにもいかないし、何とかして治したいからと、朝昼晩と飲む何種類もの大量の薬をもらい半年くらい続けたのですが良くならないので、「先生、どうしたら治るんですか」と聞いたら「喘息は治らないよ。薬で症状を抑えながら、だましましたまし一生付き合ってくださいよ」と言われてしまいました。僕は治ると思って行っていたのでショックでした。

「そうか薬で病気は治らないのやな」と、その時から治る方法を模索し

わき道 より道 さんぽ道



わたしたちが歩む人生は、ただまっすぐな一本道とはかぎりません。五里霧中の迷い道や、のどかな田んぼのあぜ道や、海にひらける坂道もあります。さて、わき道、より道、さんぽ道。誰かが決めたゴールをめざすばかりではなく、ときには大地の温もりを踏みしめ、風の香りをかぎながら、気の向くままに、ほこほこほこり散歩道。そこにはどんな出会いが待っているのでしょうか。このコーナーでは、それぞれの道を行く素敵な人にフォーカスして、お話をきいてみたいと思います。

【「あなたの病気は治りませんか？」】





愛犬イワテと共に、イワテはその名の通り岩手県生まれで、寒い季節が大好きな人懐こいワンちゃん。東日本大震災がきっかけで川瀬さんがつながりを持った、犬猫の保護活動をしているボランティア団体から、譲り受けた。川瀬さんは、この団体の犬や猫に対する純粋な愛情に共感し、継続して食品などを贈って支援している

いろいろな健康法の本を読んだり予防医学を唱っているお医者さんの所にも行き、勧められるサプリメントを飲んだりしていました。それでもさほど良くならない。そんな時、同じく自然療法の講演を聞きにきていた他の患者さんから、正食協会を教えてもらって講座へ行ったのです。

—正食の最初の印象はいかがでしたか？

川瀬 正食の話は、違和感なくスッと入ってきて、とにかく自分でやって

みようと玄米菜食を始めました。肉魚・乳製品・甘い物は全く食べず、3か月目くらいからだんだん体調が良くなってきて、8か月目頃には80kgあった体重が68kgになっていました。別にダイエットを目標にしたわけではなく、喘息を克服しないと仕事を続けられないという思いがあったので本当に頑張りましたね。断食もしましたし。

すると、玄米菜食を始める前は、仕事を終えて夕方帰ってくると「あ〜しんどい」と何もやる気が出なかったのに、8か月経って、僕は、帰宅後ジョギングをしだしたんです。何だかすこく元気が出てきて、全然疲れないのです。それと同時に、喘息の発作がピタッと出なくなりました。

—その時から現在までですか。

川瀬 はい、この20年ほど発作は出ていないのです。風邪を引いてちょっと息が苦しい程度のもものはあるにはあるけど、昔みたいにヒューヒューと息ができないのは、全くありません。それは、やはり体質が根本から変わったのだと思っています。

【大や猫の生命力を活性化させる食生活とは？】

—それでご自身の体験から、食生活の大切さをペットにも活用しようと考えられたのですか。

川瀬 そうです。人である僕は「玄米菜食」で元気になったわけですが、はたして犬たちにとつての「玄米菜食」に当たる「正食」は何だろうと、本を読んだり、獣医さんにいろいろ質問して、ずいぶん勉強しました。

犬は元々先祖はオオカミだと言われていて、肉食の動物。何万年と獲物を捕って食べてきました。人間と体の構造が違います。

犬は、肉を食べる時、嘔吐せずに引きちぎって飲み込む。強い胃酸が出て、すぐ消化が始まる。腸が人間よりずっと短い。猫の場合は、犬よりもっと胃酸が強く、腸も短いです。

そういう考えから、犬や猫に向けた食生活を勧めないとしたらだということ、今のような馬や鹿や鶏の冷凍生肉をメインにした商品を扱うようになったのです。

ヨーロッパやアメリカのペットショップや展示会にも勉強に行きましたが、どこでも生肉は販売していません。その頃、日本では置いていた所はなくて、たぶんうちは先駆けの一つだと思います。

—そうですが、生の肉が犬や猫にとつての本来の体に合った食べ物なのですか。



オーガニックのエッセンシャルオイルを使ったペット用アロマ。アレルギー対策やリラックス用など用途別に用意されている

魚や肉を材料にした噛み応えのあるおやつなども開発しておられる





色とりどりにずらりと並ぶのは、なんと!ワンちゃん用無添加手作りクッキーやポーロ、サツマイモ・人参・リンゴ・かぼちゃなどを素材にしたオリジナル商品だ



消化に優しいワンちゃんのための玄米粉米粉、手作りフードのトッピングなどにお勧めしていると言う

川瀬 ええ、それと現代のペット達には、運動が必要。犬の場合は特にしっかりと運動させればストレスもなくなりますね。外で飼うのは、犬のホルモンバランスにとっても良い影響を与えます。朝方は気温が低くて、日が昇ってくるにつれて気温が上がるとい

自律神経のバランスを調えます。

今は、どうしても室内飼いが増えてきていて、それが悪いと言っているのはないのですが、冷暖房など人工的な環境は、アレルギーなどにも関係するから注意して頂きたいと、お客様にお話しています。

—そうすると、今のペット達は、アレルギーが多いのですか？

川瀬 とても多いです。犬・猫の死亡原因1位はガンですが、獣医さんにかかる病気で一番多いのはアレルギー疾患です。

—初めて知りました、驚きですね。

川瀬 僕が27年前ペットショップを始めた頃は、アレルギーなんて殆ど聞きませんでした。そのちょっと前くらいから、ドライのドッグフードが売られ始めたのです。ドッグフードって加工食でしょう。内容を見ると、肉やお米・小麦・ハーブなどが入っていて栄養バランスをとるためカルシウムなどミネラルを添加してある。それらに200℃近い高熱を加えドライフーズを作っていて、そんな物では生きた栄養をとれるわけがないと僕は思っています。

—人間の場合も、加工食品や食品添加物が出回り始める時代と並行してアレルギー疾患などが増えていきました

が、同じようなことが起こっていたのです。

「帝塚山ハウンドカム」さんの生肉のペットフードを食べて「うちの子が元気になった」というお客様の声がありますか？

川瀬 ええ、たくさんあります。アレルギーが良くなったとか結石が治ったというのはしょっちゅうです。

—犬は人間より体も小さいし、変化が早いのでしょうか？

川瀬 そうだと思います。犬の寿命は12〜15年として、大体人間の4分の1くらいのスピードで変化が表れます。人間が1年かかるなら犬は3か月で変わる感じですね。

アレルギーで皮膚が赤裸にむけたようなワンちゃんが、食事を変えて1か月くらいで赤いのが引いたとか、乳ガンでブツブツがいっぱい出ていたのが全部消えたワンちゃんもいます。僕はそういうのを目の当たりにしていますから、自信を持ってお勧めできます。

—体と食べ物との関係がしみじみわか

りますね。

川瀬 ええ、よくわかります。

僕は、ドライのドッグフードはあまりお勧めできる物ではないと思います。本当のイノチが入っていないですからね。加熱処理しているからビタミンなどほなくなるし、酵素や有用な菌もありません。その上、世の中の過剰ともいえる清潔志向がペットの世界にも及んでいて、かえってワンちゃんの体を弱らせている。ちよつと変わった物を食べたらくお腹をこわす。逆に、生の物を食べさせると、菌や酵素もたくさん体の中に入るので、免疫力も高まり健康になりますよ。

犬の結石も多いです。ドライフードの中に無機質のミネラルを添加しているの、食べた時に遊離して膀胱などで溜まって結石になりやすいと言われています。それが生肉をやると良くなるのです。ドライドッグフードを食べると、病院で治してもらっても、また石が詰まったりしますが、生肉を食べると再発しにくいですね。

糖尿病も多いです。甘い物が好きなワンちゃんが多いんです。

—犬がですか？

川瀬 ええ、まんじゅうを好きとかア

イスクリームを好きとか。飼い主さんがおやつに食べさせてしまつたらですが。それにドッグフードには、小麦なんか結構入っていて、糖分が含まれているから、糖尿病になりやすい下地があるのですよ。それだけならギリギリの線を保っているけれど、ちょっと悪い物をあげると症状が出てくるのだと思います。

人間は唾液にアミラーゼなど炭水化物を溶かす酵素がありますが、犬にはないのですよ。体内の酵素にも炭水化物を溶かす酵素はほとんど持っていない。

ちなみに繊維質を分解する酵素も持っていない。野菜を食べたとしても酵素分解できないから栄養としてとれません。

—元々、そんな物を食べていなかったからですね。

川瀬 人の場合はおにぎりを食べたらエネルギーになるけれど、犬にはエネルギーにならないので、炭水化物は脂肪として蓄積されたり糖尿病の原因になりやすいのです。

—自然の秩序に沿ったら、犬には犬の食べ物ということですね。

川瀬 穀物を食べさせたいとおっしゃるお客様には、副食材として玄米の微粉末をお肉に混ぜることを勧めています。微粉末なのでご飯よりは吸収すると思うのですね。

—お店には、ワンちゃん用のクッキーもありましたね。

川瀬 小麦粉やサツマイモを原料にしたオリジナルの手作りクッキーですが、砂糖は入っていません。あくまでおやつとして主食の1割以内であげてくださいと言っています。愛犬の喜ぶ顔を見たいとかご褒美にしたいという要望に応えて作りました。愛犬とのコミュニケーションの道具ですね。

—福祉施設と連携して作っておられるそうですが。

川瀬 はい、依頼して作って頂いています。それが施設にとって仕事になります。うれしいですし、お互い協力できればと考えています。

—ペットフーズの販売だけでなくいろいろな活動をされているのですね。今日は、人間の社会の問題が反映され

たような、ペットの健康事情をお聞きして、意識を新たにしました。どうもありがとうございました。



DATA

「榊帝塚山ハウンドカム」
 〒558-0053
 大阪市住吉区万代3-2-1
 ☎ 06-6673-2112
 定休日 木曜日
 営業時間 10時～19時
 URL <http://www.houndcom.com/>